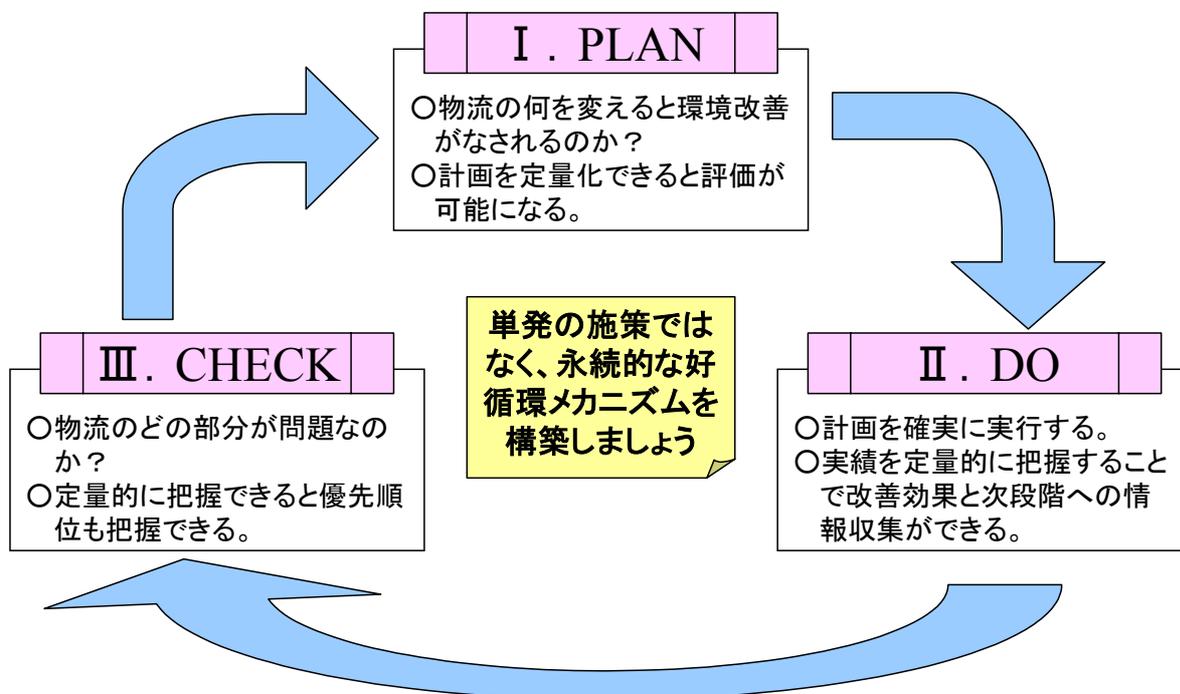


## ※モーダルシフトチェックシートの活用方法

- ・チェックシートは、荷主企業や物流企業が実際に源流管理による環境負荷低減を実施する際に検討すべき事項を記載しております。CO2削減を目的としたモーダルシフトの実施を検討される時は、本書に従ってご検討ください。
- ・チェックシートでは、I. PLAN (計画)、II. DO (実行)、III. CHECK (確認) の三段階 (サイクル) で、単発の施策ではなく、循環メカニズムで記載されています。また、この3つのサイクルにはそれぞれ数段階 (ステップ) で記載されておりますので、皆様の検討段階に応じてご活用ください。(詳しくは「0-2. 全体フロー」参照)
- ・また、チェックシートでは皆様が計画策定時に参照すべき「資料集」の参照頁を記載しておりますので、併せてご活用下さい。
- ・なお、本書ではモーダルシフトの範囲として、トラック等の陸上輸送から鉄道や内航海運への転換を想定しています。CO2削減施策には他にも有効な施策がありますが、ここではモーダルシフトを対象にチェックシートを記載しています。



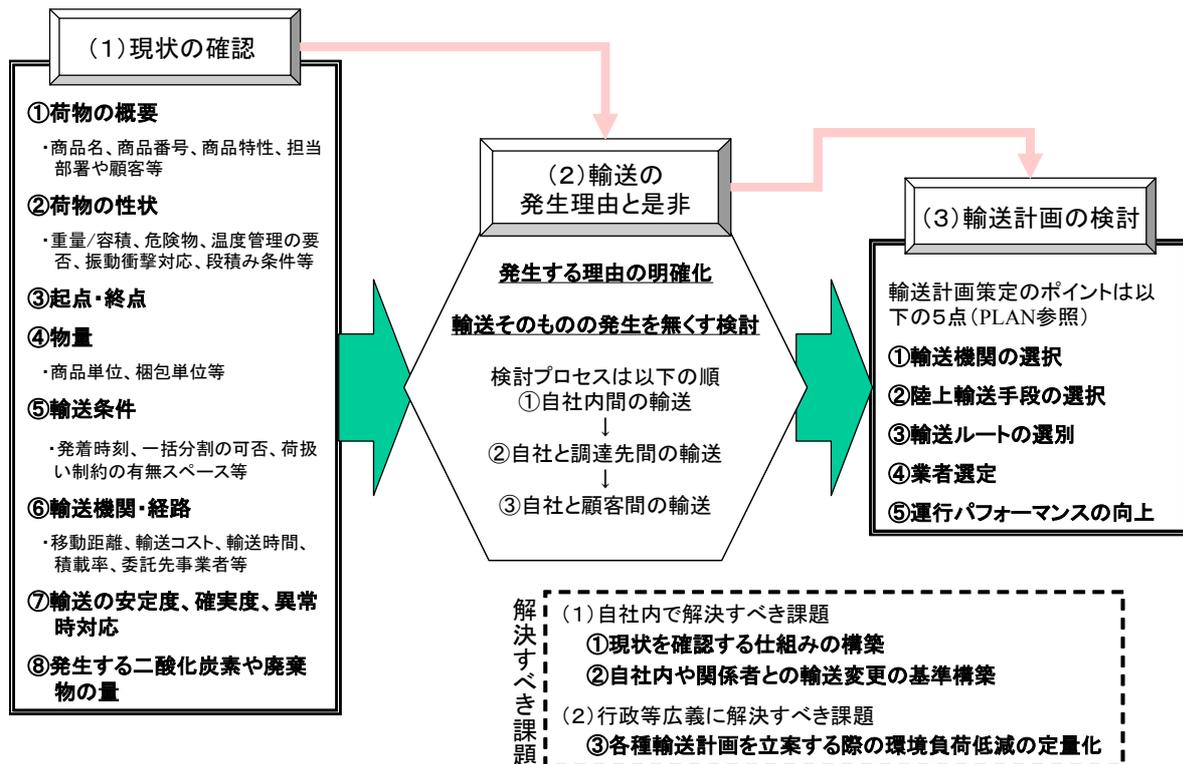
## 0-1. 輸送の確認

輸送は荷物を物理的に移動するものです。CO2削減を念頭に置くと具体的な方策は輸送時に発生させるCO2を減少させるものが中心となります。ただ、そもそも輸送は発生させないつまり、物理的な移動そのものを無くすことができればCO2排出量は全くなくなるわけです。現状の輸送そのものを確認することで「そもそも対象となる輸送をなくすあるいは最小限にすること」が重要になります。

ここでは現状の輸送そのものの確認は以下の検討の前提となります。

- ①そもそも対象となる輸送をなくすあるいは最小限にすること
- ②輸送時に発生するCO2を最小限にするための方策検討

図表1 「輸送の確認」の概要



モーダルシフトに限らず輸送の改善時には「そもそも対象となる輸送をなくすこと」の是非を検討した上で「輸送時に発生するCO2を最小限にするための方策検討」を実施すべきです。

### Check!

皆さんの担っている物流が本当に必要か？  
無駄な物流が生じていないか考えてみましょう。



計画が不十分なために発生する拠点間移動（横持ち）など、輸送する必要のないものの輸送は排除されましたか？それでは輸送時のCO2を最小限にするための方策を検討してみましょう。

## 0-2. 全体フロー

本書で記載している輸送機関の選択（モーダルシフト）は以下の手順で記載されています。必要に応じて関連する部分をご活用ください。

図表2 モーダルシフトの全体フロー

